

氏名(本籍地)	ボテフ イヴァン (埼玉県)		
学位の種類	博士 (国際地域学)		
報告・学位記番号	甲第409号 (甲国第18号)		
学位記授与の日付	平成29年3月25日		
学位記授与の要件	本学学位規程第3条第1項該当		
学位論文題目	A Study on Picturebooks for Community Education (和訳: コミュニティ教育における環境絵本の可能性 についての研究)		
論文審査委員	主査 教授	博士 (工学)	藤井 敏 信
	副査 教授	博士 (工学)	荒 卷 俊 也
	副査 教授		高 橋 一 男

【論文審査】

ボテフ・イヴァン氏はブルガリア出身であり、現在博士課程に在籍している。同時に当大学の特任講師として東洋大学で英語学習に関連する科目を教えている。

氏の研究テーマは、環境絵本が郷土帰属意識の醸成に果たす可能性を明らかにすることにある。

その背景としては、母国がEUに加盟することにより、他の同盟国へ人口が流出し、急激な人口減を招いている事態がある。氏はこれを問題視し、なんらかの対応策につながる研究が必要であると考えた。そして長期的には将来を担う児童の郷土意識の醸成が重要であるとし、この醸成の展開には環境絵本を活用した教育課程を導入することが一つの有効な方法ではないかと仮説した。

本論文の構成は、第一章では、論文の背景と目的、第二章では、環境絵本の特性と児童教育への適用、調査方法における Reader Response Theories の導入、生活領域の概念、第三章では、絵本の選択と調査の方法、「マトリックス表」の設定、第四章では、具体的な調査の説明を展開し、第五章では、それらのまとめとして「マトリックス表」の有効性を論じている。

本論文は、地域の生活環境をテーマとしたいわゆる「環境絵本」が、子供や若者の地域帰属意識に与える可能性について新たな視点から考察している。絵本は視覚的な表現や物語を通して子供やその時期を経てきた若者にとって社会的なコミュニケーション能力を養成する効果をもつ。中でも「環境絵本」の読書は、グローバル化により地域間の移住が増

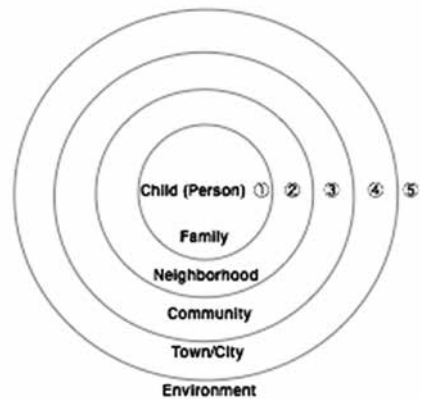
大し、生活空間の変容が顕著な現代において、人間が身近な環境を認識する契機となりひいては地域への帰属意識の向上につながる可能性を有していると想定し、その実証的な分析を行っている。

本論は大きく二つの論点から構成される。ひとつは、絵本の可能性について言及している。絵本に関するさまざまな定義を紹介し、文字による物語性と視覚的な想像力を喚起する特性を併せ持っていること、これにより特に環境絵本では児童に特定の空間やそこにおける出来事を印象付ける効果があることを明らかにしている。

ふたつめは、郷土意識の醸成を測る「マトリックス表」を提案している。郷土意識の醸成には、子供の成長過程において、家庭や近隣、そして地域へとひろがる空間とそこでの活動を経験的に認識することが基本的に求められる。個人の領域を中心に、そこから広域的な空間までを生活圏として段階的に特定することは、これまでも計画領域や児童心理学領域では研究蓄積があり、本論でも児童研究者による類似の図式を紹介しているが、その中から建築学者吉阪隆正の提起した個人から地域に至る空間段階を選定し、(図1)縦横で構成されるマトリックス状の表を、郷土意識の醸成を図る教育ツールとして設定している。

この「表」において、縦軸は空間の広がり(ハード)であり、横軸はそれぞれの特定された空間における活動(ソフト)を意味する(図2)。「表」の書き込み調査は、絵本読書の経験があり、この評価が可能な大学生(1,2年)204名を実験対象者としている。空間段階に対応して選定した5つの絵本を示し、内容を把握してもらった後で、上記の同心的な生活空間モデルの5項目を縦横に並べたマトリックス表の各欄に、当てはまる絵本の内容を記述してもらう方式(Reader Response Theory)を採用している。「表」に記入されたコメントはその割合で示したように、最も多く共通して表現されたものである。

環境認識の図式モデルとしてはまず、「個人(子供、若者)」を中心にし、次第に地域へとひろがる日常生活行動の同心円的な領域モデルを提起している吉阪隆正(1986)、Bronfenbrenner(1979)、P.O.Wikstrom(1990)を取り上げた。いずれも個人から拡大する生活空間を「家族」、「近隣」、「コミュニティ」、「町/都市」、そして全体の基盤となる「地域・自然環境」として表せる領域的な生活空間を、地域のまとまりとして描いている。この中から簡便に要約されている図として、吉阪隆正の同心円図を採用した。そしてこれら5つの



Takamasa Yoshizaka's concept of local living environment

図1

Functions and Activities /SOFT/

	People	Neighborhood	Community	Town/City	Environment
People	Children, 48%	Busy with daily life; Economic Disparity, 61%	Children robbed out of having a "second school", 61%	Mayor's Promise and Betrayal, 68%	Preoccupation with daily lives—ignorance toward nature, 55%
Neighborhood	Librarian and Journalist helping the children, 51%		Library—gathering space for children and "idea house", 31%	Participatory Society—local residents' needs and desires, 52%	Living space more important than nature, 45%
Community	Children making an effort for a playground, 56%	Lack of playground for children, 38%	4h meeting/50 people; unity and cooperation, 53%	Lack of Top-Down action, 54%	Abundance → Lack of nature, 31%
Town/City	Children's pledges ignored at City Hall; police cited, 32%	Empty space allotted for a playground, 62%	Bottom-up movement, 70%	Urbanization—many buildings, less nature, 45%	While vital, nature in the city is ignored, 29%
Environment	Longing for nature, 40%	Creation & growth pushes nature away, 28%	Lack of greenery—uncomfortable living environment, 42%	Like nature in baric, 30%	

Matrix with results for readings of The Streets Are Free.

図 2

個別の生活空間単位の意味の把握や相互の関係性の構造的な認識が、結果として帰属意識の醸成につながると仮定し「表」の提案とその有効性の論証を行っている。

本論文の独創的な点は、上記の「表」をもとに環境絵本を分析しているところにある。具体的な過程は、まず①地域の環境に関連する絵本の中から特に「家族」、「近隣」、「コミュニティ」、「町／都市」、そして全体の基盤となる「地域・自然環境」をそれぞれ主題にしている絵本を選定し、②これら絵本を子供から若者までの対象者に読んでもらい、あるいは読み聞かせて、③対象者に「表」の各欄に絵本から得られた印象的な事柄を書き込んでもらい、もっとも多かった意見をもとにその「表」をパターン化して類別している。

得られた表データから、第一に、「表」のほぼ全ての欄が書き込まれることで、環境絵本は郷土意識の醸成に寄与していること、第二に、それぞれに主題とした環境絵本ごとにパターンとしての特色がみられることから、「表」が郷土意識の醸成を測る媒介として有効な教育ツールであると結論づけている。また、環境に関する絵本が子供から若者までの年齢層に与える影響について、この媒介ツール（マトリックス表）を導入することで、環境絵本が郷土意識の醸成につながる可能性があることを明らかにしている。

【審査結果】

優れて独創的で、ブルガリアの教育科学省の学術機関からも当該研究に関連する論文がすでに表彰されており、今後の展開が可能な論文として評価に値する。また、国際地域学研究科（国際地域学専攻）の博士学位審査基準に照らしても妥当な研究内容であると認められる。従って所定の論文評価に基づき、本審査委員会は全員一致をもってボテフ・イヴァン氏の博士請求論文は、本学博士学位を授与するに相応しいものと判断する。